22　　不吉な彗星 　文法　反語形①

春秋時代、がのに仕えていた時に、夜空に不吉な前兆である（）が現れた。

景　公　嘆ジテ、「堂　堂タレドモ ①　 　。」群　臣　皆　晏　子ノミ。公　怒リテ、「彗　星　㆓デテ 東　北㆒ニ、当㆓タル 斉ノ 分　野㆒ニ。㋐寡　人　以テ 為㆑スト 。」 晏　子　、「君、 高㆑ク ヲ深㆑クシ 、　ハ 如㆑ク 弗㆑ルガ得、刑　罰ハ 恐㆑ル 弗㆑ルヲ 茀　星　将㆑ニ 。②彗　星　　 。」 公　、「可㆑キヤ フ ㋑否。」晏　子　、「使㆔メバ 神ヲシテ可㆓カラ 祝シテ 而　来㆒ル、亦　可㆓キ 祓ヒテ 而　去㆒ル 也。　ノ 苦　スルコト以㆑テ 万ヲ 数フ。ウシテ君、 令㆓ムトモ一　人ヲシテ **一レ** 、③安　能　勝　衆　口　乎。」 是ノ 時　景　公　好ミテ 治㆓メ 宮　室㆒ヲ、㆓メ 狗　馬㆒ヲ、　ニシテ、厚㆑クシ 賦ヲ 重㆑クス 刑ヲ。故ニ ④晏　子　㆑　。

語注

堂堂＝宮殿の立派なさま。

分野＝地上の領域に対応させた空の区分。

高台深池＝宮殿を豪華にすること。

賦斂＝税を取り立てること。「賦」は租税の一種。

使神可祝而来＝神に祈祷して来させることができるならば。

一人＝ここでは「一人の神官」の意。

衆口＝多くの人々が言うところ。

狗馬＝自分の言うことを聞く家臣。

【原文】

景　公　嘆　曰、「堂　堂　誰　有　此　乎。」群　臣　皆　泣、晏　子　笑。公　怒　曰、「彗　星　出　東　北、当　斉　分　野。寡　人　以　為　憂。」 晏　子　曰、「君、 高　台　深　池、賦　斂　如　弗　得、刑　罰　恐　弗　勝。茀　星　将　出。彗　星　何　懼　乎。」 公　曰、「可　祓　否。」晏　子　曰、「使　神　可　祝　而　来、亦　可　祓　而　去　也。百　姓　 苦　怨　以　万　数。而　君、 令　一　人　祓　之、安　能　勝　衆　口　乎。」 是　時　景　公　好　治　宮　室、聚　狗　馬、奢　侈、厚　賦　重　刑。故　晏　子　以　此　諫　之。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

景公は〔　　　〕が出現したことを恐れたが、晏子はこれを笑った。晏子は、彗星の出現は単なる凶兆であるが、それよりも景公の悪性に対する民の〔　　〕しみや〔　　〕みを恐れるべきだと指摘した。

問二　波線部㋐・㋑の読み方を、ひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　反語形①

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 如㆓～㆒ヲ 何セン | | 如 何ゾ ～〔セ〕ン（ヤ） | | 安クニカ ～〔セ〕ン（ヤ） | |
| ～をどうしようか、いやどうすることもできない。 |  | どうして～か、いや～ない。 |  |  | 安くにか～︹せ︺ん（や） |

　⑴　次の表を完成させよ。〈1点×3〉

⑵　次の文の傍線部を語注を参考に、現代語訳せよ。 〈2点×2〉

1　我　適　 矣。（適帰＝身を落ち着ける）（史記）

2　虞ヤ 兮　虞ヤ 兮　奈㆑ 　。（若＝お前）（史記）

1〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。 〈6点〉

ア　誰がこの立派な宮殿を保ち続けていくのだろうか。

イ　誰もこの立派な宮殿を保ち続けることはできない。

ウ　誰でもこの立派な宮殿を保ち続けることができるだろう。

エ　誰もこの立派な宮殿を保ち続けようとはしない。

〔　　　〕

問五　傍線部②を現代語訳せよ。ただし「懼」は「恐れる」という意味の動詞である。 〈8点〉

〔

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部③を書き下し文にせよ。 〈6点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（。｣と。）〕

問七　傍線部④とはどういうことか。四十字以内で答えよ。 〈15点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問一　彗星　苦　怨

問二　㋐＝かじん　㋑＝いな〈4点×2〉

問三　⑴　〈1点×3〉

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 如㆓～㆒ヲ 何セン | | 如 何ゾ ～〔セ〕ン（ヤ） | | 安クニカ ～〔セ〕ン（ヤ） | |
| ～をどうしようか、いやどうすることもできない。 | ～を如何せん | どうして～か、いや～ない。 | 如何ぞ～︹せ︺ん（や） | どこに～か、いやどこにも～ない。 | 安くにか～︹せ︺ん（や） |

⑵　１＝どこに身を落ち着ければよいだろうか、いやどこにも落ち着ける所はない。〈2点×2〉

　　　　　２＝お前をどうしようか、いやどうすることもできない。

問四　イ〈6点〉

問五　どうして彗星については恐れるものでしょうか、いや恐れるものではありません。〈8点〉

問六　安くんぞ能く衆口に勝へんや（。｣と。）〈6点〉

問七　彗星の話を用いながら、多くの人民を苦しめている景公の悪政を戒めたということ。（38字）〈15点〉

【現代語訳】

　景公が嘆いて言うことには、「（宮殿は）堂々と立派であるが、誰がこれ〔＝宮殿〕を保持するだろうか、いや誰も保持しない。〔＝斉が滅んでしまう。〕」と。群臣は皆泣いたが、晏子だけは笑った。景公が怒って言うことには、「彗星が東北の方角に出て、斉を指す区分にあてはまった。（だから）私〔＝公（景公）〕は心配事に思っているのだ。」と。晏子が言うことには、「あなた様は、宮殿の台を高く池を深くし（豪華にし）、租税を取り立てる際は、手に入れていないかのよう（に欲深いもの）であり、刑罰は（すべてを）しきれないことを恐れる（ほど多い）。（そのようなことから）茀星は現れようとしています。どうして彗星（茀星）については恐れるものでしょうか、いや恐れるものではありません。」と。公が言うことには、「祓うことができるかどうか。」と。晏子が言うことには、「神に祈祷して来させることができるならば、同様に祓うこともできるでしょう。（しかし）人民が苦しみ怨むことは万を数える（ほど多い）のです。そしてあなた様が、一人の神官にこれ〔＝彗星〕を祓わせても、どうして多くの人々が言うことに堪えられるでしょうか、いや堪えられません。」と。この時、景公は好んで宮殿を（豪華に）築き、自分の言うことを聞く家臣を集め、度を過ぎたぜいたくをして、税を重くして刑罰も重くした。そのために晏子はこの話によってこれ〔＝景公の行為〕を戒めたのである。

【書き下し文】

じてはく、「たれどもかをたんや。」と。けども、のみふ。りてはく、「にでて、のにたる。てひとす。」と。はく、「、をくをくし、はざるがごとく、はへざるをる。にでんとす。ぞれんや。」と。はく、「ふべきやや。」と。はく、「をしてしてるべからしめば、ひてるべきなり。のすることをてふ。うして、をしてをはしむとも、くんぞくにへんや。」と。のみてをめ、をめ、にして、をくしをくす。にをてをめしなり。

【補充問題】

問１　傍線部②をすべてひらがなで書き下し文にせよ。

問２　傍線部③の解釈として、最も適当なものを選べ。

ア　どんなことも民衆が安んずることにまさるものはない。

イ　どうしても民衆の言うことに堪えることができない。

ウ　どうして民衆の言うことにたえることができないのか。

エ　どの点においても民衆の訴えを覆すことができない。

問３　傍線部④の「此」と「之」は、どのようなことか。それぞれ五字以内で答えよ。

【補充問題解答】

問１　すいせいなんぞおそれんや。（」と。）

問２　イ

問３　此＝彗星の話

之＝景公の悪政